

各分科会について

10月12日(日) 9時20分～11時40分

第1分科会・テーマ「里親の地位向上のために」

この分科会は、カリフォルニア州弁護士Carole(キャロル) Shauffer(シャウファー)氏に講師を依頼しています。

分科会は日本語で進行しますが、講師は英語で講演し、適宜日本語による通訳をいたします。

(講演の要旨)

こども家庭庁が発足し、こども基本法・こども大綱が施行・決定され、こどもを権利の主体とする「こどもまんなか社会」に向け、児童福祉法も大幅改正されました。

しかし、児童福祉法に定められている、こどもに社会的養護が必要になった場合の家庭養護の推進、要保護児童の里親委託率の向上、里親登録者数の確保、社会における里親制度の認知度・理解度などの面では、まだ十分とは言えません。

里親の社会的役割の推進、里親が養育のために必要となる知識・技術の向上、児童相談所、里親支援センターなど関係機関との連携が必要です。

今後は、こうした社会的な動きのみならず、社会における里親の地位が向上しなければ、これから新たに里親になってご活躍いただく皆さんの人数も増えていかないのではないかと心配されます。

この分科会では、こうした問題を捉えるため、里親養育とその役割等に詳しい、里親制度の先進地域であるカリフォルニア州で弁護士として活動されている、Carole(キャロル) Shauffer(シャウファー)氏にご講演をいただき、学ばせていただきます。

なお、助言者として、北海道出身である早稲田大学の上鹿渡和宏教授にご助言をいただきます。

第2分科会・テーマ「里子への心理・医療的な関わりについて」

里子の委託を受ける際、大人しくて「良い子」が来てくれるのではないかと期待する里親が多いかと思われれます。しかし、実際にやって来る児童の多くが、親などからの虐待を受けていたり、知的・発達障害を有していたりして、育てにくい例が多く、慣れない里親さん達は驚き、どうかすると里親を止めてしまう方もいらっしゃるのではないかと思われれます。

里子の方達に多く見られる問題行動は、実親家庭での複雑な事情のみならず、何らかの社会的背景から生じてきているものが少なくないようです。こうした養育が困難な児童の養育を的確に行うためには、一般的な里子の心理を理解し、医療の専門家からの助言をいただくことが、大変有効です。

本分科会では、北海道でこの分野で広範は活動をされている医療法人社団 倭会ミネルバ病院の田中康雄副院長にご講演をいただき、質疑応答を経て、何らかの知識を持ち帰っていただくことを期待しています。

第3分科会・テーマ「里親のためのセルフケアと子どもの心のケア」

講師 エンパワメント・センター代表 森田ゆり 氏

森田講師からのお知らせ

動きやすい服装で参加ください。

困難課題を抱える子どもの養育と支援のための3つの基本アプローチ

- ① レジリエンスとエンパワメント：その理解と日々の実践
- ② リスク・アセスメントではなくニーズ・アセスメントのスキル（対話力）
- ③ 「怒りの仮面」を活用して、子どものトラウマ症状に対応する。

この3つの基本アプローチからぶれない日々の暮らしのために、セルフケアのノウハウを知り、体験してください。

そもそもセルフケアって何ですか？

あなたのセルフケアと子どもへのケアの相乗効果理論をお話します。ここで実践的に学ぶあなたへのセルフケアの技法は、子どもたちへのケアともなるのです。

最新の欧米の研究は、ベストのセルフケアは、瞑想（呼吸法）とヨーガ（動く瞑想）であることを示しています。

児童心理治療施設、児童自立支援施設、少年院などで、森田は過去11年間、虐待のトラウマ症状のある子どもたち、ADHDやASD傾向のある子どもたち、加えて施設職員にもALOHA KIDS YOGAと瞑想を教え、顕著な変化をもたらしてきました。施設の子どもたちに教えている映像を見ながら、里親家庭でできる効果的な瞑想ヨーガの動きを学んでください。

日本各地の児童相談所や家児相などで実践されている「MY TREEペアレンツプログラム：虐待に至った親の回復プログラム」を森田は25年前に開発しました。全13セッションの最初の15分に学ぶ瞑想ヨーガは、ストレスに晒されている親達の感情調整や子どもとの対話力に大きな影響を与えています。映像を見て、瞑想の呼吸法を練習し、その効果の生理学的な背景も学びます。

森田はアメリカと日本で40年以上、虐待・DV・性暴力・子育て当事者支援の専門職研修に携わってきました。里親としてのあなたが今抱えているどのような質問にもお答えします。

第4分科会・テーマ「里子の気持ち セルフアドボカシー」

日頃、自分の家でともに暮らしている里子が、実は里親が想定し理解していることと違う考えを持っているかもしれません。

本分科会では、現役の里子と里子OB・OG（里子ユース）の皆さんにより、自由な会話をしていただき、ユースの皆さんの中で、そしてその会話を見守る里親・関係者の側でも、新たな気づきを得て、相互理解の糸口を見つけられないか、試行してみようと思います。

今回は、フォスターユースの会のご協力を得て、関東ブロックの4人と、北海道ブロックの4人の、里子ユースの皆さんが参加されます。その助言者

として、北海道医療大学から片山寛信助教と、同大学の奥田かおり講師に、ご参加いただきます。

なお、ユースの皆さんの氏名は、個人情報保護の観点から、当日その場限りとさせていただきます。分科会での写真撮影、録画、録音、SNS・インターネット等での公開は、ユースの皆さんに承諾を得た大会実行委員会の担当者による範囲のもの以外は、堅くお断りさせていただきますので、ご了承ください。

第5分科会・テーマ「里親の楽しみとストレス解消法」

「私はね、楽しいの」講師をお願いした電話に帰ってきた声は、沖縄の風を運んできました。

研修会での里親の事例発表では、養育が難しい児童との生活に格闘する里親による苦労話を耳にすることが多いかもしれません。

里親が社会の中で大事な役割を果たしていることに気づき、自らもその一員になれないものかと考え始めた方は、先輩里親の苦労話を聞いて最初の一步を踏み出すことを躊躇してしまうかもしれません。

これから、「里親家庭」を楽しみ、仲間を増やし、里親家庭でよい未来を築くために、里親仲間を増やすためには、里親としての楽しい面や、数あるストレスに対するその解消法のヒントを耳にすることは、大変有意義なことと思われます。

事例発表には、沖縄県、高知県、北海道から計4名の里親さん達にご発言いただき、その後の議論につなげます。回答はないので、専門家による講演は持たず、児童相談所からのコメントをいただくこととしています。